

# 特集

## 「正しさ」を考える

2021年3月の内閣府「第6期科学技術・イノベーション基本計画」では、Society 5.0<sup>\*</sup>を目指すうえで、自然科学のみならず人文・社会科学分野を含めた「総合知」の重要性をあげています。このような社会を目指すなかで、新型コロナウイルス感染症の感染拡大という強烈な状況の力が、世界各国の社会的課題を浮き彫りにしました。背景には、サイバー／フィジカル空間におけるミスコミュニケーション、正解のない課題に向き合う際に生じるさまざまな感情的軋轢が存在するのではないのでしょうか。システム構築のための科学技術への関心が先行し、「人間中心の社会」にかかわる議論が追いついていない印象も持ちます。Society 5.0に向けて、人や社会が求める「正しさ」をめぐる議論が今後どのように展開されうるのか、複数の観点からあらためて考えてみたいと思います。

(村山 綾)

---

\* サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）。